

羅臼町のルサ川における河川改修の方向性について

羅臼町の国立公園及び世界自然遺産地域内に位置するルサ川は、河口部の道道が通過する知床橋以外には河川横断工作物がなく、かつその流域には人の生活圏が全くない知床でも稀な河川である。

河口に近い知床橋の上流部は、以前サケマスの稚魚の畜養のために河床が改変された経緯があり、畜養のために掘削されて出来た二本目の流れが形成されている。また知床橋近くの左岸側の一部がコンクリート護岸されており、その護岸の内側が洗掘されているため、その洗掘の進行を防ぐための大型土嚢が応急的に置かれている。

また、右岸側一帯はかつて工事用残土置き場として利用されていたが、現在は環境省所管地となっており、所管地には「ルサフィールドハウス」が環境省によって設置されている。

令和 5 年度からこの環境省所管地における園地整備が実施される予定であり、現在計画段階ではあるが、歩道や観察施設、親水機能を持つ施設などが候補に挙げられている。

ルサ川の河川管理者は羅臼町であり、左岸側の洗掘の大型土嚢による応急手当は町が実施しているが、この洗掘に対応する自然環境に配慮した恒久的な手当は、以前からの羅臼町の課題であった。

今回環境省の園地整備が計画されるにあたって、所管地が河川敷に及んでいる部分もあったため、事前に環境省との調整がなされ、必要な河川の改修については羅臼町が実施し、所管地からの河川までのアプローチ及び親水機能を持つ施設整備や、所管地と河川が接していて崖状になっている部分の勾配緩和は、環境省が実施することになった。

羅臼町はこの機会をルサ川の根本的な改修を実施する絶好の機会ととらえており、環境省と連携して河川敷と隣接する所管地の園地整備と合わせて、ルサ川の河川環境や魚類の生息・繁殖環境を極力損なわずに、出来得る限り自然素材を活用して左岸側の浸食を抑えるための河川改修を実施したいと考えている。

ルサ川流域はサケマスが遡上して自然産卵し、それを目当てにヒグマや大型猛禽類が集まるなど、知床の中でも原生的自然環境が色濃く残る区域である。よって河川改修にあたっては、現状で形成されているサケマスを含む野生生物の生息・繁殖環境を可能な限り保全しながら施工していきたい。

また、右岸側の園地整備と同時に河川改修を実施することについては、両事業の相乗効果を得るまたとない機会である。環境省との調整を今後も継続していき、改修による河川の変化はもちろんのこと、両事業の整合性や安全性、親水性に充分配慮しながら進めていきたい。

